

24

真玉橋^{まだんはし}の人柱（口）

その橋はね、昔から、首里からこの島尻に通う時の重要な橋だから、その橋を架ける時にね、どんなに架けてもね、この橋はもう壊れて、水に流されて。どんないい大工がやってもできなかったそうですよ。流されて橋は架からなかったそうですよ。

それでね、そこに女だったというが、ちょっと生まれも違っておった。その女がね、

「この橋は、七色ムーティをしている人を埋めない限りはこの橋は、架からないよ」と言ってお出したそうですよ。そして、こつちから通る人みんなね、昔はみんな髪を結っておるでしょう、男も女も。それから、みんな紐解いてみたらね、その言うた女だけしか七色ムーティをやっておる人がなかった。だから、その人をね、自分で言うてあるから、もう仕方なく、その人はそこに埋められたそうですよ。その橋の下に。

それからね、その人が自分の子に（女の子を生んで

おったそうですよ）。

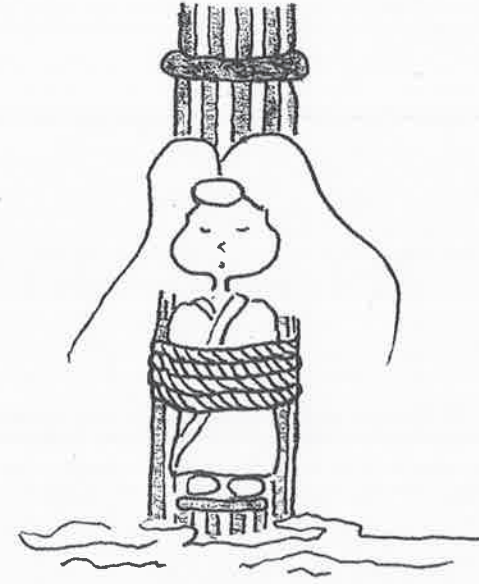
「ものを言うてはいかないよ。ああなったらね、埋められる。真玉橋の香炉になるよ」と子どもに言つてね。その女の子はね、全然ものを言わなくなったそうです。

だから、その人をそこに埋めてね。それが位牌になつて、その人を柱に埋めたそうですよ。その時からね、その橋は架かったそうです。昔、どんなにしてもね、水に流されて橋が架からなかったそうです。

それで今でもね、自分たちの女の子がものを言わなくなつたら、

「真玉橋の香炉にされるぞ」と、今の子は誰も言わんけれど、自分たちのお婆ちゃんの時分はね、そう言うて脅かしよつたさ。

その娘が下女になつてきてね。あそこの偉い人のお嫁さんになつたそうですよ。その娘がね、親が「ものを言うてはいかんよ」と教えたから、その人が結婚したから言つたつていう。それで、本当はチーグー（啞者）ではなくてね、ものは言えるが、言うていかんと言われとるから言わなかった。それで、後はね、結婚したから言つたという伝説があるさ。



字武富 大城トミ